

身体の働き・機能について

第3回 肝・心について

平成28年1月27日

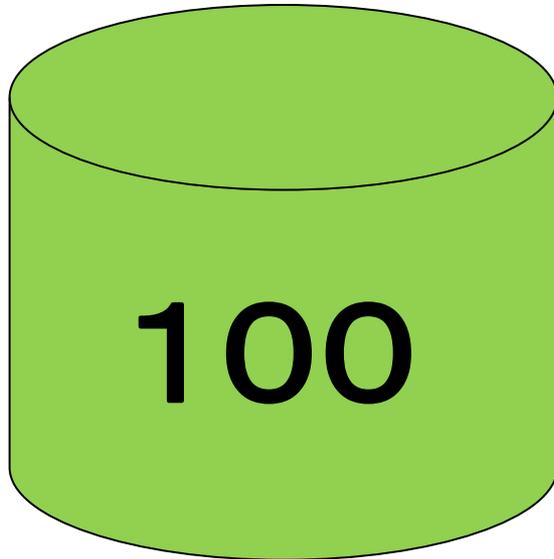
株式会社リエイト

南波利宗

前回のおさらい

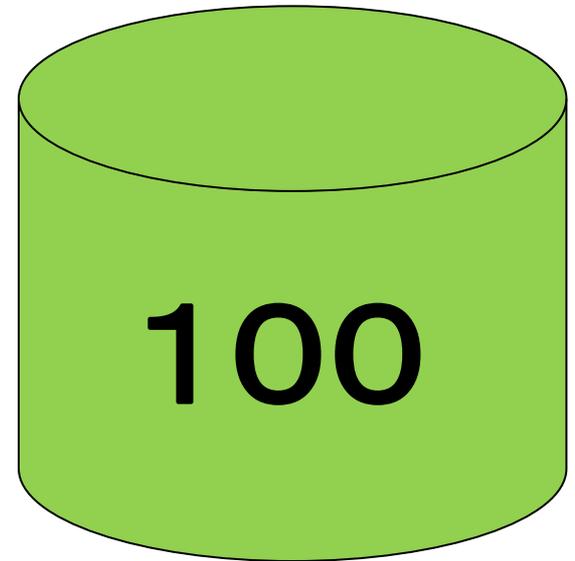
症状が出るかどうか

自分の機能 \geq 必要な機能
の場合、症状は出ない



自分の機能

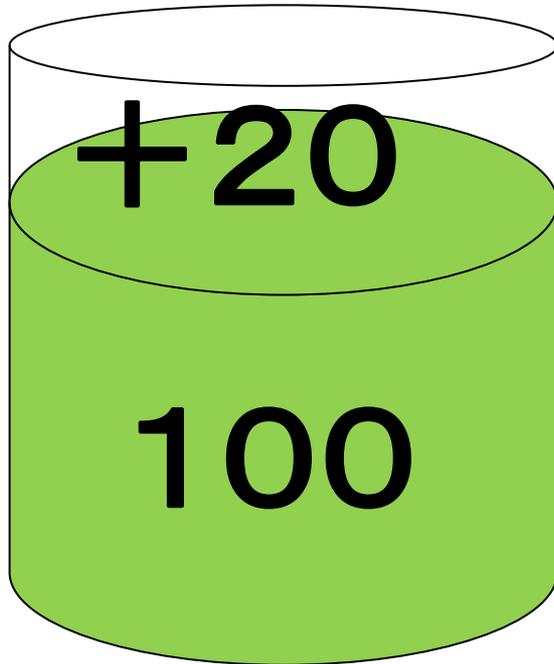
VS



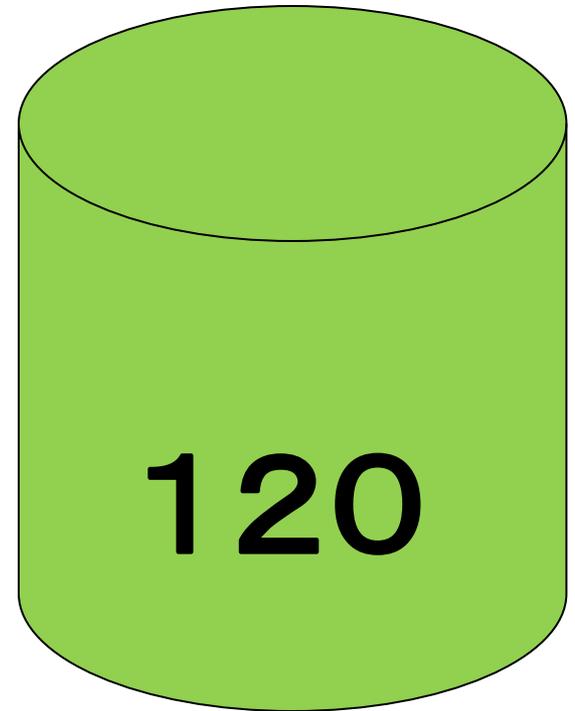
必要な機能

症状が出る時①

必要な機能が大きく、無理をした時



VS

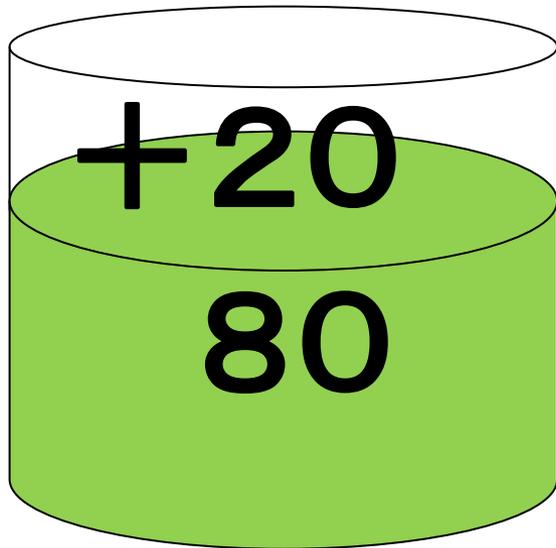


自分の機能

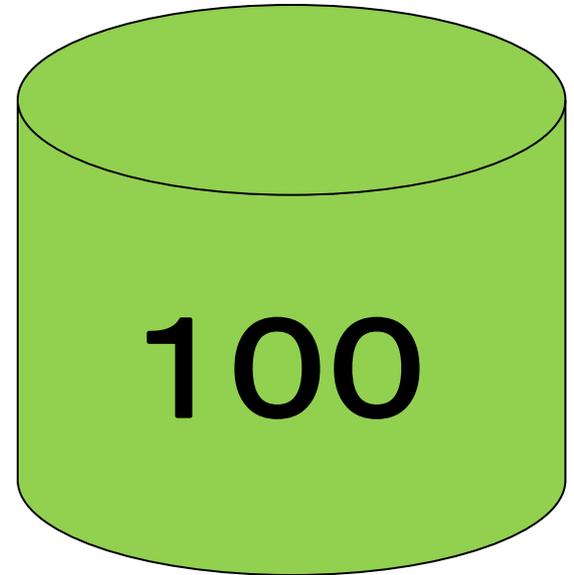
必要な機能

症状が出る時②

自分の機能が低下し、無理をした時



VS

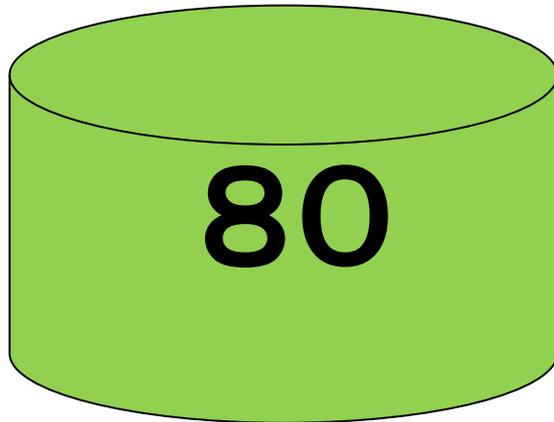


自分の機能

必要な機能

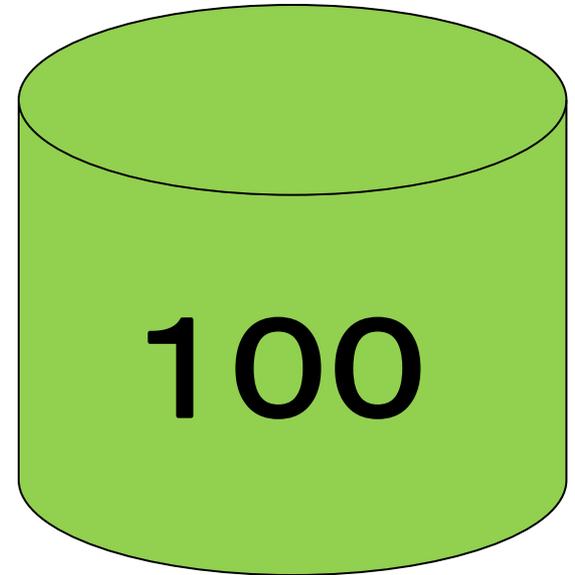
症状が出る時③

自分の機能が低下し、賄い切れない時
＝器質的病変出現＝病気



自分の機能

VS

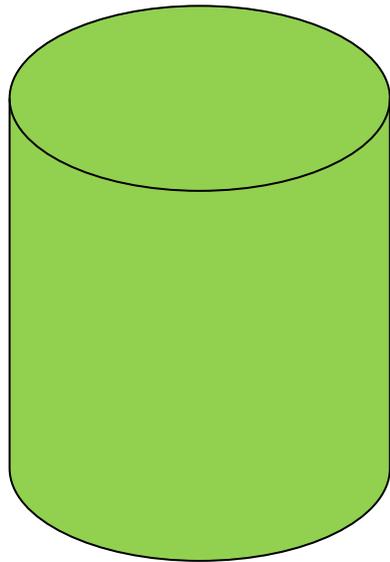


必要な機能

本日の流れ

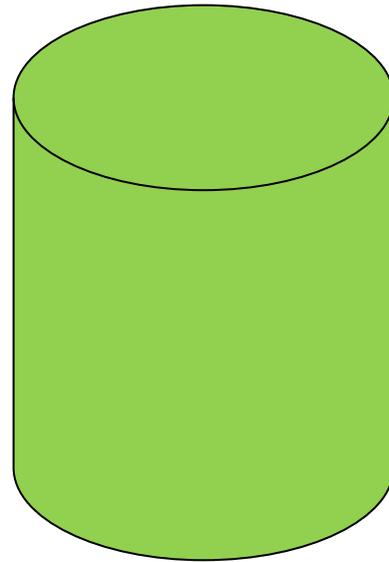
- 第3回
- 肝・心について
 - ① 質疑応答(前回内容)
 - ② 肝・心の症状について
 - ③ 肝・心と日常生活について
 - ④ 肝・心の診断基準について

先天の力 : 生活 : 症状



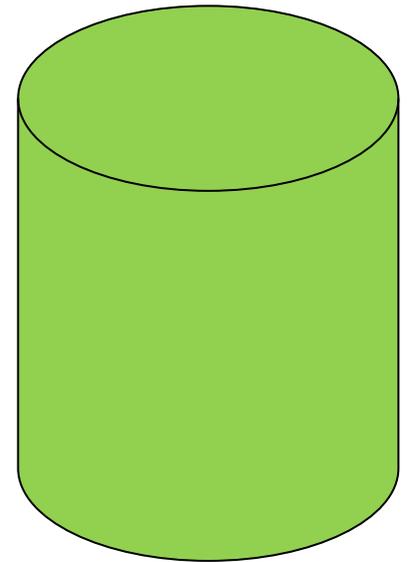
生まれ持った
体力・体質

+



日常生活に
よる負担

=



症状
検査所見

見立てを行う流れ

- ①どのような日常生活を行うと、どの蔵府に負担がかかるかを知る
- ②どの蔵府がどのような症状を出すかを知る
- ③診断方法、診断基準を持つ
- ④日常生活 VS 出方によって、どの蔵府がどの位強いかが分かる
- ⑤幼少時の症状、既往歴を聞くことで、体質判断を行う

肝について

- 肝臓の生理作用

- ①代謝作用(糖質・脂質・たんぱく質代謝、体温発生作用)
- ②胆汁排泄作用(脂肪代謝、V,Fe,Ca吸収)
- ③解毒作用
- ④血液量の調節作用
- ⑤造血、ヘモグロビン破壊、血液凝固因子生成作用

軽度の機能低下による症状

- 肩こり(特に右肩)
- 首すじのこり(特に右側)
- 右肩甲下部辺りの背部筋肉の引きつり
- 心下部みぞおち辺りが硬結して重苦しい
- 右季肋下辺りが腫れ気味で重い
- 右側の背中が腫れ、盛り上がる
- 足の筋肉がつる(特に右側)
- 腓腹筋がひきつり、しこりが出来る

軽度の機能低下による症状2

- 体全体がだるく、特に下肢がだるい
- 顔面の皮膚や手掌、足底に黄色が出る
- 目に軽い疾患が出る
- 蕁麻疹が出る
- めまい、貧血になり易い
- イライラして焦心しやすくなる
- 怒りっぽくなる

重度の機能低下による症状

- 筋腱関係の疾患：全ての筋腱の疾患(筋肉、筋膜、靭帯、腱)
- 神経関係の疾患：全ての神経の疾患(感覚・運動・自律神経、精神病)
- 眼科関係の疾患：全ての眼疾患
- 皮膚関係の疾患：全ての皮膚疾患
- 胆のう関係の疾患：全ての胆のう疾患
- 肝臓関係の疾患：全ての肝臓疾患

胆の病証(臓腑病証)

- 口が苦く宿汁(①前夜食べたものの汁説、②胆汁説)を吐く、喉に何か引っかかる感じで唾を吐く

肝の病証(経絡病証)

- 是動病

腰が痛んで全後屈できない、男：陰囊の腫れ・疝痛、女：下腹部の腫れ、喉が乾燥・顔の艶なくなる・しみが出来る

- 所生病

胸が張り満ちる、嘔吐、下痢、鼠径ヘルニア、小便洩れる、小便出ない、蕁麻疹、糖尿病、黄疸、陰囊腫れ、

肝の病証(臓腑病証)

- 両脇下が痛み下腹部に及ぶ、腹が立ちやすい、虚した時はふらふらして目が良く見えず、耳が良く聞こえない、びくびくして人から追っかけられるような気がする、のぼせると頭痛し、耳が聞こえない、頬が腫れる

胆の病証(経絡病証)

- 是動病

口が苦い、ため息、心臓部脇肋部痛で寝返り打てない、顔に艶と潤いが無い、足外側熱する、足が外側に反る

- 所生病

頭痛、あごの痛み、外眥の痛み、鎖骨上窩が腫れて痛む、腋窩・頸部リンパ節の腫れ、汗出て悪寒発熱、胆経の通りと関節が痛む、第4趾が使えない

胆の病証(臓腑病証)

- 口が苦く宿汁(①前夜食べたものの汁説、②胆汁説)を吐く、喉に何か引っかかる感じで唾を吐く

心について

- 心臓の生理作用
 - ①体循環
 - ②肺循環

軽度の機能低下による症状

- 寒がりになる
- 手足が冷たい
- 舌先にしびれ感がある
- めまいがする
- 貧血症になる
- ちょっとしたことでも微汗が出る
- 胸苦しくなる
- 動悸が起こる
- 下痢便が続く

軽度の機能低下による症状2

- 冷汗が出る
- 食べ物の味感覚が薄れる
- 上肢を脇の下に縮めて寝る
- 心下部が硬直して重苦しい
- 呼吸が浅くなる
- 隠ぺいして消極的になる
- 消化不良になり易い
- じっと一か所を凝視できにくく、目が疲れる

重度の機能低下による症状

- 胃腸関係の疾患：全ての胃腸疾患
- 血液循環関係の疾患：全ての循環障害
- 舌の疾患：全ての舌疾患
- 心臓関係の疾患：全ての心臓疾患

心の病証(経絡病証)

- 是動病

喉乾燥、心臓痛む、喉が渴いて水を飲みたがる(臂厥)

- 所生病

目が黄色くなる、脇が痛む、上肢心経の通りが痛み、冷える、手掌が熱くなって痛む

心の病証(臓腑病証)

- 胸が痛む、脇が苦しい、脇下の痛み、胸・背中・肩甲間部の痛み、両腕内側の痛み、虚すと胸と腹と脇下と腰が一緒に痛む

小腸の病証(経絡病証)

- 是動病

喉の痛み、あごの腫れ、後ろを振り向けない、
肩が抜け腕が折れるような痛さ、

- 所生病

耳が良く聞こえず、目が黄色くなる、頬の腫れ
、頸・あご・肩・上肢の小腸経の通りが痛む、喉
の腫れと痛み

小腸の病証(臓腑病証)

- 下腹部痛、腰から睾丸にかけて引きつられるような痛み

肝・心に
負担がかかる
日常生活

睡眠時間

- 適切な睡眠時間帯

22:00～4:00

- 朝寝坊: 肝が働くべき時に働けない
- 睡眠時間が短い: 肝・心が回復できない
- 臥位で寝ない: 心に負担がかかる
- 寝過ぎ: 筋肉運動が少ないと心に負担

睡眠の質

- 寝付けない

肝・心の精神活動↓

- 中途覚醒

肝機能↓ (産熱機能低下)

- 睡眠薬使用

朝から肝を働かせられない

長期服用で心↓

食欲

- ない

＝消化機能低下

肝：食欲がなくても食べられるが、食後の胸脇苦満や悪心が顕著

心：「味が苦い」、「美味しくない」と言って、あまり食べたがらない

- 朝食を抜くと元気：肝機能弱い

嗜好品

- 肝・心に負担をかけるものが多い

糖質→脂質になる 脂質→コレステロール→
動脈硬化→心の負担↑

肉→腸に停滞→肝で解毒

インスタント食品・スナック菓子：添加物解毒

油分：特に動物性

アイスクリーム・果物：体を冷やす、産熱必要
量↑

水分

- 清涼飲料水、炭酸水：酸味、添加物で肝機能過剰
- コーヒーの杯数と解毒機能、苦みによる心への負担
- 水分量が多い：心への負担↑

アルコール

- 少量のアルコールは問題ないが、添加物の方が問題：肝過剰
- 飲み過ぎ：血流量↑＝心の負担大、入眠前は最悪

既往歴

- 体質—日常生活—病気 の関係により、先天的・後天的な強さを判断する
- 肝に負担をかける生活が続く→肝臓の病気発症・・・とは限らない
- 子供の頃に罹った病気＝先天的に弱い臓器

服薬

- 化学薬剤全般：肝機能負担↑
- ヘパリーゼ：肝機能一時的に↑
- 強心剤：心機能一時的に↑
- 不整脈：CAST試験

不整脈＝心臓を休めるために起こる場合も

運動

- 過度の運動: 肝、心負担↑
- 運動量少ない: 肝機能↓
- 不動時間長い: 心負担↑特に立位

診察基準 肝

- 肝

脈診：右関上、弦脈

腹診：左腹部、季肋部、季肋膨隆、肝叩打痛

触診：筋肉硬い、肌荒れ・かさつき

望診：右側膨隆(肩、背部)、吹き出物、爪の変形・縦線

診察基準 心

- 心

脈診：右寸口、不整脈、弱脈

腹診：心下部、胸肋骨変形

触診：胸骨圧痛、棘突起間圧痛、手ほてり、下腿浮腫み

望診：目が泳ぐ、舌が震える、爪が白い

どう臨床に活かすか

症例検討

Q & A

5種類に分けた身体の機能

肺：呼吸、皮膚機能

心臓：全身に血を巡らせる、体温調節(体温下げる)、精神作用

肝臓：解毒、発熱、代謝、糖貯蔵、筋疲労回復

脾臓：胃、膵臓(消化、血糖調節)

腎臓：老廃物をろ過、水分代謝、膀胱(排尿、体温調節)、腸(吸収、排泄、発熱、免疫)

推薦図書

『やまい一口メモ—東洋的な健康観のすすめ』

著者：小林詔司 難易度☆☆

『経絡治療のすすめ』

著者：首藤傳明 難易度☆☆

『鍼術上達講座』

著者：杉山勲 難易度☆☆☆

『東洋医学講座』2巻、3巻、7巻

著者：小林三剛 難易度☆☆☆☆☆